

— 婦人民主クラブ創立70周年記念 —

白井真奈 パイプオルガン コンサート

十月五日、婦民創立七十周年を記念して「白井真奈パイプオルガンコンサート」が神奈川県民ホールで開催されました。奏者の白井真奈さんは、京都とドイツ・カッセル市を拠点に、バロック、ロマン派から現代までの幅広いレパートリーを持つコンサートオルガニスト、チェンバリストです。

重層的響きに魅了され

はじめに主催者あいさつに立った櫻井幸子さん（会長）は、次のように述べました。

「今年、婦人民主クラブは創立七十周年を迎えました。あの悲惨極まりない戦争が終わった翌年の一九四六年三月十六日、二度と戦争を繰り返してはならないと願う女性たちによって、平和と民主主義、女性の地位向上、子どもの幸せをめざして創立されました。今、また戦争の足音が近づいているように思われま

す。しかし私たちは、決して平和を手離さない、日本国憲法を守り生かす活動をこれからも力強く続けていく所存です。白井真奈さんは、ヨーロッパ各国の国際音楽祭でのリサイタル、オーケストラや合唱団との共演など毎年二十回を超える多彩な演奏活動を展開しているオルガニストです。心ゆくまでご堪能ください」

満場の拍手に迎えられて白井さんが登場。パイ

ポオルガンは「重々しくすべて手作り個性が違うため、二日前から練習を開始して本番に臨みました。

三百種あるストップ（音色）を組み合わせ、二千二十四本のパイプから奏でられるハーモニーはさまざまな楽器の音にも似て初めて聴く人はビックリ、圧倒されます。調律は一曲ごとに行なうためアシスタントが欠かせないのも特徴です。

参加者からは「重々しいものとの思い込みがありました。楽しいさわ

やかな響きもあり本当に幅広く、深いものでした」「重層的な音に圧倒されました。二千二十四本ものパイプを通して聴いた豊かな音、忘れないと思います」「一台でオーケストラ」とのこと、驚きました。「『赤とんぼ』素敵でしたね」「初めてパイプオルガンを聞きました。いろいろに音色が変化することに驚きました。また新しい音楽と出会えたことがうれしいです」など感動の感想が多数寄せられました。



演奏の合い間に、白井真奈さん



一曲一曲心をこめて

演奏曲目はハイドンやバッハ、ワーグナーなどおなじみの作曲家の曲をはじめ、「ルーミアニア民族舞曲」「威風堂々」など八曲、最後のアンコールでは「赤とんぼ」が演奏され、パイプオルガンの幅が広いことを実感しました。